

《手段》の接続詞と《因果関係》の接続詞

山崎雄介

1. 序

現代ドイツ語において《手段》を表現する従属接続詞として代表的なものは《indem》であるが、これに意味の近い表現として、《dadurch ... dass》もしくは《dadurch dass》¹⁾を挙げる文献が数多く見られる。論者がIDSで公開されているコーパスを用いて行った調査によると、このコロケーションは、特に近年の話し言葉において、dadurchとdassの2語から成る複合接続詞として意識される傾向にあるということが分かってきた。つまり、後続するdass文のKorrelatとしてdadurchが上位文に埋め込まれる構造の文における《dadurch dass》は《手段》を表現する従属接続詞《indem》と意味上は近似的であるとされているのであるが、しかしながらその一方で、《因果関係》を表現する従属接続詞《weil》と《dadurch dass》との関係に言及する文献も少なくない。実際にMannheimのドイツ語研究所(IDS = Institut für deutsche Sprache)が公開している話し言葉のデータで《dadurch dass》を含む文例を参照してみると、明らかに《手段》を表現していると考えられるものが多い一方で、少ないながらも《因果関係》を表現していると考えられるものも存在する。このことは、《dadurch dass》が《indem》と《weil》の役割を兼ねるものであるということの意味しているのであろうか。また、そのように《dadurch dass》が《手段》と《因果関係》とを兼ねるのであれば、それら両者の境界線や棲み分けが曖昧になってしまったり、あるいは両者が同一視されてしまったりしないだろうか。一体この《dadurch dass》とは何なのだろうか。

本稿では、論者がコーパス²⁾より収集した文例を参照しながら、こうした《dadurch

- 1) 拙稿(2006): 現代ドイツ語の話し言葉と書き言葉における従属文またはzu不定句を伴う「da(r)-前置詞」の枠外配置について。『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第51輯第2分冊。S. 181-192, および拙稿(2006): 従属文を伴うdadurchに関する考察— <dadurch dass>は話し言葉で<文法化>するのか—。早稲田言語研究会編 Travaux du Cercle Linguistique de Waseda 第10号。S. 48-60。また、すでにこれら2語から成るコロケーションを複合的な従属接続詞とみなしている文献も見られる(Duden Band 4 [2005] など)。このことから本稿では《dadurch ... dass》と《dadurch dass》を同一のものとみなし、便宜上これらをまとめて《dadurch dass》と表記する。
- 2) 本稿ではIDSで公開されている話し言葉データ(Deutsches Spracharchiv und Datenbank Gesprochenes Deutsch)のうち、テレビのトーク番組、ディスカッション、インタビューが収められている„Gespräche im Fernsehen: Talkshows, Diskussionen, Interviews (GF)“を参照した。なお、本稿で用いるコーパスには「GF054」「GF026」といった数が付されているが、これはコーパスの番号であり、IDSによって振られた番号と一致している。コーパスの詳細についてはIDSウェブサイト内の次のURLを参照されたい: <http://dsav-wiss.ids->

《dass》の特に話し言葉における振る舞いを明らかにすることを試みるが、単なるデータの統計を提示することはせず、むしろ、いくつか選び出した文例を精査・検討することが中心となる。なお、文例はすべて1980年代後半から1990年代前半にかけてのものである。

2. コーパスから収集された《dadurch dass》

まずは、コーパスより収集された《dadurch dass》を含む会話のトランスクリプトを四つ挙げ、それぞれの文例において《dadurch dass》がどのような振る舞いをしているかを観察し、それぞれが《手段》を指示しているのか《因果関係》を指示しているのかを発言の意味内容から考える。

一つ目は、1989年9月13日にRTL-plusによって放送された „Die Woche. Menschen im Gespräch: Der neue Faschismus“ という番組のトランスクリプトの一部である。発言者HGが678行目で《dadurch dass》を使用している。

GF054 (1989年)

676 HG: gemeinsame ba"sis ↓ und ich finde- * der * charakter

677 HG: einer volkspartei- SCHLUCKT muss eben auch

678 HG: repräsentiert werden da"durch- * äh dass äh *

679 HG: mehrere leute- vie"le leute ↑ für diese partei in

680 MG: | gut |

681 HG: der öffentlichkeit auch geradestehen können |das|

ここでHGは「民衆政党の特色は、多くの人がこの政党について責任を持ちうることによって示されねばならない」と発言しているが、つまり読み換えれば、「多くの人とその政党に責任を持ちうる」という《手段》でもって「民衆政党の特色は示されねばならない」ということと理解できる。つまり発言者は民衆政党の特色を示すための《手段》を言っているのである。より正確にこれを判断するために、《手段》を問う疑問詞 WODURCH と《因果関係》を問う疑問詞 WARUM を用いて、《dadurch dass》が導く従属文の内容を尋ねる疑問文を作ってみる。(便宜上、トランスクリプトは記号などを除いて提示する。)

der charakter einer volkspartei muss eben auch repräsentiert werden dadurch äh dass äh mehrere leute viele leute für diese partei in der öffentlichkeit auch geradestehen können

a) WODURCH muss der charakter einer volkspartei repräsentiert werden?

b) WARUM muss der charakter einer volkspartei repräsentiert werden?

これは明らかに WODURCH で尋ねる疑問文の方に妥当性があると考えられる。逆に、WARUM で尋ねる場合、期待できる答えは元の発言とは異なったレベルのものとなる可能性が大きい。このことから、HG の発言にある《dadurch dass》は《手段》を指示するものと考えられるのである。

次に挙げるトランスクリプトは、1988年9月5日にARD 1 plusによって放送された „nachtClub: Das Recht auf die Zigarette oder Raucher raus“ という番組の一部である。発言者 TR が 1591 行目で《dadurch dass》を使用している。

GF206 (1988 年)

1590 TR: ist ↓ ** und jetzt könnten sie sagen ↓ → das erklärt

1591 TR: sich vielleicht dadurch dass ← * äh die ärzte * äh

1592 TR: immer weniger geraucht haben ↓ * auch da"s stimmt

「そのことは、喫煙する医者がますます減ったということで説明がつくかも知れない」というこの発言は、「喫煙する医者がますます減ったということ」を以って「そのこと」の説明がつくということであると理解でき、つまり TR は「そのこと」を説明する《手段》を言っているのであると考えられる。これも WODURCH と WARUM を用いて疑問文にするという操作を行ってみる。

das erklärt sich vielleicht dadurch dass äh die ärzte äh immer weniger geraucht haben

a) WODURCH erklärt das sich?

b) WARUM erklärt das sich?

これも、元の発言と同様の発言を期待するには WODURCH による疑問文が妥当であろう。WARUM による疑問文はまったく異なった発言を導きかねない。よって、発言者 TR が用いた《dadurch dass》は《手段》を指示しているものと判断できる。

三つ目に、Südwest 3 が 1990年3月10日に放送した „Nachtcafé: Frauen und Macht“ という番組のトランスクリプトの一部を挙げる。ここでは発言者 PG が 1835 行目で《dadurch dass》を使用している。

GF156 (1990 年)

1831 PG: also meine erwartung is- ** natürlich an diese

1832 PG: senatorin in berlin und auch an andere frauen die

1833 PG: ma"cht ausüben- * daß sie mit dieser- ** ausübung

1834 PG: von ma"cht auch in diese gesellschaft etwas *

1835 PG: qualitativ anderes bringen ↓ ** dadurch daß sie

1836 PG: anders denken ne andre optik haben- * ne andre

1837 PG: vorstellung von le"ben haben auch von politischer

1838 PG: entscheidung haben und ähnliches meh:"r ↓ * und ich

これも前出のGF054, GF206と同様に, 《dadurch dass》を用いて上位文の目的達成のための《手段》を表現していると考えられる。すなわちPGは「男性とは違った考え方をしたり, 男性と違う物の見方をしたりする」等によって「彼女ら(女性たち)は質的に違う何かを社会にもたらす」と言っているのであり, 男性と違う行動をするという《手段》によって社会に何かをもたらすということと理解できるのである。しかしながら同時にこのPGの発言は, 「男性とは違った考え方をしたり, 男性と違う物の見方をしたりする」等の理由によって「彼女ら(女性たち)は質的に違う何かを社会にもたらす」とPGが言っているとの解釈も可能である。つまり, 場合によっては上位文と従属文との間に《因果関係》が認められるのではなかろうか。このGF156においてPGが用いている《dadurch dass》は《手段》の色が濃いながらも, 場合によっては《因果関係》とも受け取れる。前2例と同様に疑問文を作ってみても, どちらとも判じ難い。WODURCHで尋ねても WARUMで尋ねても, 答えは元の発言と同様のものとなる可能性がある。

daß sie mit dieser ausübung von macht auch in diese gesellschaft etwas qualitativ anderes bringen
dadurch daß sie anders denken ne andre optik haben ne andre vorstellung von leben haben auch von
politischer entscheidung haben und ähnliches mehr

a) WODURCH bringen sie mit dieser ausübung von macht auch in diese gesellschaft etwas qualitativ anderes?

b) WARUM bringen sie mit dieser ausübung von macht auch in diese gesellschaft etwas qualitativ anderes?

最後に挙げるトランスクリプトは, ZDFが1994年10月6日に放送した „Doppelpunkt: Deutsche Einheit - Alles Banane? Junge "Ossis" und "Wessis" sagen sich die Meinung.“ という番組の一部である。発言者MAが857行目で《dadurch dass》を使用している。

GF207 (1994年)

855 MA: zugrunde gegangen ist ↓ * sondern es ist eben ne

856 MA: no"tgemeinschaft gewesen vielfach ↑ * und die ist

857 MA: eben- * da"durch daß die äußeren umstände sich

858 MA: geä"ndert haben- * jetzt nich mehr no"twendig und

859 SH: |wart ihr | nur gu"t

860 MA: deswegen ist sie auseinander | gebrochen ↓ |

ここでは dass 従属文を上位文の後域に出さずに上位文の中域に挿入するという形で

《dadurch dass》が用いられているが、発言内容を検討してみると《dadurch dass》が《手段》を表現しているとは言えない。というのも、「外的状況が変わった」ことが「それ（緊急の共同体）がもはや必要でない」ということを達成する《手段》であるとは考えにくいからである。むしろこの MA の発言は「外的状況が変わった」という理由によって「それ（緊急の共同体）がもはや必要ない」と言っていると考えることが妥当であり、よって、ここで用いられている《dadurch dass》は《因果関係》を表現していると考えざるを得ない。

und die ist eben dadurch daß die äußeren umstände sich geändert haben jetzt nich mehr notwendig

a) WODURCH ist die jetzt nicht mehr notwendig?

b) WARUM ist die jetzt nicht mehr notwendig?

ここで《dadurch dass》が指示する内容に関しては WARUM で尋ねるのが妥当であろう。以上、《dadurch dass》を含む文例をコーパスより 4 例挙げたうち、明らかに《手段》の意味で用いられていると考えられる《dadurch dass》が 2 例 (GF054, GF206)、《手段》とも《因果関係》とも考えられうるもの (GF156) とおそらく《因果関係》を表現していると考えられるもの (GF207) とがそれぞれ 1 例ずつあった。《dadurch dass》は《手段》だけでなく《因果関係》も表現すると考えればよいのだろうか。

3. 《手段》と《因果関係》の同時性と能動性

ここで《indem》と《weil》の特性について考えてみる。

GF206 (1988 年)

487 WI: lha"lten sie jetzt ↓ die passiv

488 KR: lich sa:g ihnen sie geben/ sie

489 WI: oder aktivrauchlinie ↑ |

490 KR: geben zu:- | sie geben zu: * >dass

491 KR: rauchen schä"dlich ist ↓ <* indem sie ja etwas

492 KR: entspre"chendes auf diese zi*garettenschachtel

493 BR: → augenblick da steht augenblick sie

494 KR: drucken ↓ <wenn>

KR の発言中 491 行目に従属接続詞《indem》が見られるが、上位文と従属文とで定動詞を比較すると、両方とも直説法現在形となっている。また、主語について上位文と従属文を比較すると、両方とも主語は同じである。コーパス „Gespräche im Fernsehen (GF)“ (注 2 を参照) 内に出現する《indem》による従属文とその上位文とを観察すると、ほとんどの文例で両者の時制が一致 (29 例中、一致 27 例、不一致 2 例) しており、上位文と従属

文の主語も多くの文例で一致(29例中22例)していた。

一方《weil》について同様のことを調査してみると、115例のうち上位文と従属文とで定動詞の時制が一致している文例は72例であり、また、上位文と従属文とで主語の一致が見られる文例は44例にとどまって全体の半数にも満たなかった。

調査範囲は狭いが、こうしたことから、《weil》に比べて《indem》ではより上位文と従属文とで時制の一致が求められ、主語の一致が好まれる傾向があると言える。つまり、《手段》の特性が浮き彫りにされているということである。というのも、何らかの動作(A)を行うことを《手段》として何らかの動作(B)を行うのであるから、本来AとBとは同時であることが自然であり、Aを《手段》としてBを達成するということは、自らAを《手段》として自らBを行うということであり、AもBも同一の人(ごくまれに物)によってなされることもまた自然である。換言すると、上位文とその目的達成の《手段》を指示する従属文とには時制の一致という「同時性」と主語(有意志)の一致という「能動性」が見られて当然である。

前章では《手段》とも《因果関係》とも判じ難いとしたGF156の《dadurch dass》の文例をこうした観点から観察してみると、上位文と従属文とで時制にも主語にも一致が見られることから、この《dadurch dass》は《indem》に近い性格を帯びていると言えるだろう。

4. 《dadurch dass》の《indem》《weil》との関係

《手段》を表現する《indem》に近い役割を《dadurch dass》が担うケースの存在が確認されたが、すでに《indem》と《dadurch dass》の関係については多くの文献で指摘されているところである。

Duden-Stilwörterbuch (2001) „indem“:

/instrumental/ *dadurch, dass*: man ehrte den Schriftsteller, indem man ihn in die Akademie der Künste wählte.³⁾

Duden-Grammatik (2005) „modal-instrumentale Konnektoren“:

»Ich bewältige es, indem / *dadurch dass* ich versuche, es zu verdrängen.«⁴⁾

Richtiges und gutes Deutsch (2007) „indem“:

3) Duden (2001): Das Stilwörterbuch. 8., völlig neu bearb. Aufl. Mannheim; Leipzig; Wien; Zürich: Dudenverl. (=Duden Band 2): S. 435

4) Duden (2005): Die Grammatik: Unentbehrlich für richtiges Deutsch. 7., völlig neu erarb. und erw. Aufl. Mannheim; Leipzig; Wien; Zürich: Dudenverl. (=Duden Band 4): S. 1101

Modales *indem* wird oft im Sinn von »dadurch, dass« gebraucht: *Man ehrte die Autorin, indem man sie in die Akademie aufnahm.* Es kann aber nicht in rein kausalem Sinn für *weil* eingesetzt werden: *Weil (nicht: indem) er keinen Versicherungsschein vorweisen konnte, wurde ihm die Weiterfahrt verweigert.*⁵⁾

Helbig / Buscha (2001) „indem“:

Modal. Instrumental. Der NS nennt das Mittel, mit dem das im HS ausgedrückte Ziel erreicht wird. (= *dadurch dass*):

Er beruhigte das Kind, indem er es streichelte.

Man setzt diese Maschine in Betrieb, indem man den Hebel herunterdrückt.

Indem er mit dem Kind das Rechnen übte, half er ihm(,) die Prüfung zu bestehen.⁶⁾

Eisenberg (2006) „kausale und temporale Konjunktionalsätze“:

Indem-Sätze haben keine Korrelate. Wir haben aber semantisch äquivalente Konstruktionen mit obligatorischem Korrelat (damit, daß; dadurch, daß).⁷⁾

最後に挙げた Eisenberg (2006) では《indem》と《dadurch dass》とを意味的に等価と見なしているが、その他と併せて総じて言えば、《手段》の意味で用いられる従属接続詞《indem》は意味の上では《dadurch dass》と非常に近いということになり、両者の近似性が指摘されていることが分かる。

さて、前章までで《dadurch dass》が《indem》に近い役割を担うケースの存在が確認され、また、上述の通りこれら両者の関係に言及する研究は多いのだが、しかし同時に《因果関係》を表現する《weil》に似た《dadurch dass》の文例も見られた。《dadurch dass》と《indem》とが非常に近い関係にあるということを指摘する研究が多い中で、実際には《dadurch dass》が《weil》に近い振る舞いをも見せているのである。ということは、《dadurch dass》は《手段》のほかに《因果関係》を表現する働きも持ち合わせているのだろうか。《dadurch dass》と《weil》の間の関係について言及されているものとしては、次のようなものがある。

-
- 5) Duden (2007): Richtiges und gutes Deutsch. Wörterbuch der sprachlichen Zweifelsfälle. 6., vollständigüberarb. Aufl. Mannheim; Leipzig; Wien; Zürich: Dudenverl. (=Duden Band 9): S. 465
- 6) Helbig, Gerhard / Buscha, Joachim (2001): Deutsche Grammatik. Ein Handbuch für den Ausländerunterricht. Neubearb. Berlin; München; Wien; Zürich; New York: Langenscheidt: S. 406f.
- 7) Eisenberg, Peter (2004): Grundriß der deutschen Grammatik. Bd. 2: Der Satz. 2., überarb. und aktualisierte Aufl. Stuttgart; Weimar: Metzler: S. 338

Duden-Stilwörterbuch (2001) „dadurch“:

auf diese Weise: [...] ; er hat das Problem dadurch gelöst, dass ...;

*dadurch, dass (weil) er uns sein Auto zur Verfügung stellte, hat er uns sehr geholfen.*⁸⁾

Richtiges und gutes Deutsch (2007) „dass“

Oft wird die Konjunktion *weil* gewählt, weil sie das kausale Verhältnis deutlicher zum Ausdruck bringt als es mit dem neutralen *dass* der Fall ist: *Dieser Schritt wird dadurch notwendig, dass / weil sich die Verhältnisse grundlegend geändert haben.*⁹⁾

Zifonun et al. (1997) „Subordination: Nebensätze“:

Nicht selten, vor allem im umgangssprachlichen Gebrauch, erscheint statt *dadurch (...)* daß die Verbindung *dadurch (...)* *weil*¹⁰⁾

上位文に *dadurch* という Korrelat を持ちながらも後続する従属接続詞が *dass* ではなく《*weil*》になるという現象であるが、ニュートラルな *dass* を用いるよりも《因果関係》がはっきりするので、頻繁に《*dadurch dass*》よりも *dadurch weil* という表現が用いられるとされている。《*dadurch dass*》と《*indem*》との関係に関する記述とは違う点は、《*dadurch dass*》がそっくりそのまま《*weil*》に取って代わるのではなく従属接続詞 *dass* の代わりに《*weil*》が置かれて *dadurch weil* という形になるという点であるが、いずれにせよ、《*dadurch dass*》が《手段》のみならず《因果関係》の表現にも関わってくるということがここで明らかになったと言える。

5. 重なり合いと揺らぎと曖昧さと

《*dadurch dass*》と《*indem*》とが非常に近い関係にあるということを指摘する研究が多い中で、実際には《*dadurch dass*》が《*weil*》に近い振る舞いをも見せており、また、*weil* が *dadurch* を上位文に埋め込まれた Korrelat として持って《因果関係》を表現することもあるということが前章までで確認された。つまり、《*dadurch dass*》は《*indem*》と《*weil*》の両方の性質を具有する複合接続詞であると言うことができる。《手段》と《因果関係》という二つの異なる接続詞の役割を兼ね備えているのであるから当然のことながら便利だと考えがちだが、しかし、二つの接続詞がここで「重なり合う」ということは、そこには同時に「曖昧さ」が潜んでいるということにもなる。もうひとつコーパスから見つかった

8) Duden Band 2 (8 2001: 214)

9) Duden Band 9 (6 2007: 465)

10) Zifonun, Gisela / Hoffmann, Ludger / Strecker, Bruno (1997): *Grammatik der deutschen Sprache*. Bd. 1-3. Berlin; New York; de Gruyter (Schriften des Instituts für Deutsche Sprache; Bd 7.1): S. 2280

文例を挙げたい。

GF156 (1990年)

1653 HP: zeigen ↓ ** sie zeigen zum beispiel und herr * zürn

1654 HP: und das ist das was mich am meisten ärgert- * sie

1655 HP: meinen * sie zeigen da"durch kompetenz indem sie

1656 K& LEICHTES LA

1657 HP: immer viel zu lange reden ↓ ** also ein

1658 K& CHEN

1659 HP: zeitverbrauch- * das → das=s ← unglaublich ↓ ** und

HPの発言の1654行目にdadurchが登場するのだが、これをKorrelatとして後続する従属文の接続詞がdassではなくindemとなっていることに注目したい。発言者HPは「常にやたら長く喋ることであなた(Herr Zürn)は能力を示していると思っている」と言っている。つまりこれは、「常にやたら長く喋る」ことを《手段》として「能力を示そうとしている」ということを言っているのだが、ここではKorrelatのdadurchは余剰である。にも拘らずKorrelatとしてdadurchを置いている。これは明らかな誤用と考えるべきだが、なぜHPはこのような誤用をするに至ったのだろうか。二つの原因が考えられる：第一に、常にやたら長く喋るHerr Zürnに途中で口を挟ませまいという意識が働き、「このあとで自分はまだまだあなたが能力を示そうとするのに用いる《手段》について言いますから、もうしばらく黙っててくださいね」という「予告」のために誤用と知りつつdadurchを上位文に埋め込んだ；もしくは第二に、能力を誇示するための《手段》を指摘するために《dadurch dass》を使用しようとしてdadurchを言ったものの、それに続いて誤って意味的に近い《indem》と言ってしまった、とも考えられる。

一つ目の原因に関しては、Korrelatとしてではなくあとで《手段》に言及することを予告する„discourse marker“として、上位文にdadurchを埋め込んだと理解できる。二つ目の原因に関しては、Herr Zürnに遮られまいと慌てて発言したための単純な言い間違いとも理解できるが、しかし、そこにはこの《dadurch dass》が持つ「曖昧さ」が作用しているのではあるまいか。

そもそもこの「曖昧さ」の一因は、《手段》《因果関係》という概念そのものに若干の「揺らぎ」が存在することによると考えられる。前章で引用したDuden-Stilwörterbuch (2001)は第8版であったが、„indem“の項目を、改訂される前の版と比較してみると：

2001年

/instrumental/ *dadurch, dass*: man ehrte den Schriftsteller, indem man ihn in die Akademie der Künste wählte.¹¹⁾

1988年

/modal/ *dadurch, daß*: man ehrte den Schriftsteller, indem man ihn in die Akademie der Künste wählte.¹²⁾

1970年

/kausal/ *dadurch, daß*: man ehrte den Schriftsteller, indem man ihn in die Akademie der Künste wählte.¹³⁾

例文はすべて同じであるにも拘らず、1970年の第6版では „kausal“ とされていた《indem》の特性が1988年の第7版では „modal“ となり、2001年の第8版では „instrumental“ となっているのである。1970年から1988年の間に《indem》の特性が変わったということであろうか。さらに、この間の1972年に出版された Duden-Zweifelsfälle („Richtiges und gutes Deutsch“ の前身) には次のような記述が見られる：

Modales *indem* wird oft im Sinn von »dadurch, daß« gebraucht: *Man ehrte die Autorin, indem man sie in die Akademie aufnahm.* Es kann aber nicht in rein kausalem Sinn von „weil“ eingesetzt werden. Falsch: *Indem er keinen Versicherungsschein vorweisen konnte, wurde ihm die Weiterfahrt verweigert.*¹⁴⁾

こちらは2007年の第6版とほぼ変わらない解説が付されており、純粋に《因果関係》の意味の《weil》で置き換えてはならないとされている。つまり少なくとも30年以上にわたって《indem》に《因果関係》の意味は認められていないのである。

これらのことはひとえに、そもそも《手段》と《因果関係》との境界線が非常に曖昧で、それゆえ両者の棲み分けにある程度の「揺らぎ」が存在するということの証左であるとも考えられる。ある意味では言語使用の上での指針となり「権威」とされる辞書にすらこのように版を重ねるごとに「揺らぎ」が見られるのであるから、一般の話者の言語使用に「揺

11) Duden Band 2 (8 2001: 435)

12) Duden (1988): Stilwörterbuch der deutschen Sprache. Die Verwendung der Wörter im Satz. 7., völlig neu bearb. und erw. Aufl. Mannheim; Wien; Zürich: Dudenverl. (=Duden Band 2): S. 386

13) Duden (1970): Stilwörterbuch der deutschen Sprache. Die Verwendung der Wörter im Satz. 6., völlig neu bearb. und erw. Aufl. Mannheim; Wien; Zürich: Dudenverl. (=Duden Band 2): S. 368

14) Duden (1972): Zweifelsfälle der deutschen Sprache. Wörterbuch der sprachlichen Hauptschwierigkeiten 2., neu bearb. und erw. Aufl. Mannheim; Wien; Zürich: Dudenverl. (=Duden Band 9): S. 345

らぎ」が見られるのも当然かもしれない。

本来は異質なものであるはずの《手段》と《因果関係》との両方を指示するという役割を《dadurch dass》が担っていることは明らかになってきたが、同時に、その両者が時折示す「曖昧さ」をもこの《dadurch dass》は受け入れていると行うことができまいか。いずれにしても、今後も調査範囲を拡大して当該の現象を観察し続ける必要がある。